

山桜の里 戸赤

村に帰ってきた人は、みんなわが家のお客さん



2015/08/14 19:22

青少年健全育成事業と行政区合同の催し。8月14日せんこう花火大会、23人参加

「この夏の暑さと水不足のせいとか実が小さいうちに落ちてしまつて、収穫量がいつもの年より少ない。盆明けの雨で後から咲き出した花は実入りが間に合わないのではな



暑すぎた夏
花豆栽培
選別しながら乾燥

やまざくら学校前の道路改良のため、河川工事施工中。

川が渡る



れきしのひとコマ

2015/07/25 10:00

【木地の学習No.58】ブナの木に適しているといえる。さらに、ムキドリ技法を伝えてきた木地屋は信州から渡ってきたという言い伝えをもち、ブンギリのほうは近江から渡ってきた木地屋に多い。そして長い間お互いの技術の交流はなかった。これは今後の木地屋の研究に興味深い問題になりそうである。ロクロ挽き ナカギリの終わった木地ガタを、ロクロの爪の中心部にジクネンボウという棒で打ち付け、ロクロの軸にまきつけた綱を交互にまわしてロクロを回転させる。これが手引きロクロで、綱を引く人とカンナ棒を持って木地を引く人と二人がかりになる。木地腕を引く人は、カンナボウで腕の外側を荒挽きし、座をかえて内側を挽く。その場で内側の仕上げをし、もう一度座をかえて外側の仕上げ、ついでにイトジリの仕上げをする。最後にイトジリに残ったロクロの爪跡をチョウナで落とす。この段階で会津若松に運ばれ、若松では木賊で磨きをかけて漆を塗る。木地屋の使うカンナボウは、荒挽き、仕上げ挽きを兼ねて一本、イトジリ用一本の計二本である。ただ、腕の内側と外側を挽く場合は座をかえるので、いちいち持って歩くことはせず、内を挽くカンナと外を挽くカンナとを用意した。またイトジリを挽くカンナは刃先が小さく、両刃に加工した。ロクロ挽きの道具 ロクロ挽きに必要なのは、ロクロと綱、カンナボウ、カンナマクラ、ジクネンボウがある。このなかで、ロクロとカンナボウが主要な道具である。ロクロは、江戸時代の絵図を見ると木の軸を使っていて、鉄製の軸は見あたらない。南会津地方でも館岩村保城と昭和村見沢から木製ロクロの軸が見つかっている。木の材質はミズネザクラで、この地方ではウスヤソリなどに利用したかたい木である。(会津地方歴史民俗資料館「木地語り」より) <つづ>

